

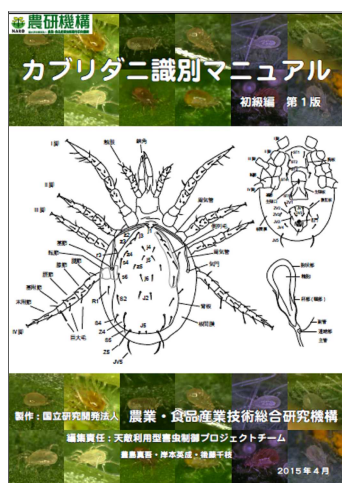
「ニュース」

1 カブリダニ識別マニュアルを公開、農研機構中央農業総合研究センター

農研機構中央農業総合研究センターはこのほど、農業に有用なカブリダニ類の種を簡便に識別できる「カブリダニ識別マニュアル 初級編 第1版」を公開しました。

カブリダニ類にはハダニ類やアザミウマ類などの重要微小害虫を捕食する天敵が多数含まれており、害虫防除への利用が期待されています。現在、海外からの導入種を含むカブリダニ数種が生物農薬として登録されており、施設野菜やイチゴの害虫防除に広く使われています。

さらに、露地作物でのカブリダニの利用も検討されており、生物農薬としてのカブリダニ剤の適用拡大試験が行われる一方で、土着のカブリダニを保護し、その働きを強化する技術の開発も進められています。



このような天敵類を活用する防除体系で不可欠となるのが、圃場や施設に生息する害虫種の識別に加え、天敵類の把握です。ところがカブリダニ類の識別は、既存のカブリダニの検索表では難解な表現が多く、形態形質を参照できる描画も少ないなど、ベテランの研究員にとっても困難なものとなっていました。また、既存の検索表には、カブリダニ製剤（導入種）を識別する情報が不足していました。

そこで、対象を主要種に絞り、識別に必要な形質を抽出することにより、農業に有用なカブリダニ類の種を簡便に識別する技術を開発しました。この技術をわかりやすくまとめたものが「カブリダニ識別マニュアル 初級編 第1版」で、同研究センターのホームページからダウンロード可能となっています。

2 殺虫剤クロルフェナピルの権利を取得、BASFジャパン

BASF ジャパンはこのほど、日本農薬が保有するクロルフェナピルを有効成分とする園芸用殺虫剤「コテツフロアブル」の日本国内における登録、登録データ、商標を含むすべての資産を、2015年10月に取得することで基本合意したことを明らかにしました。コテツフロアブルはチョウ目、アザミウマ目、ダニ目をはじめとする幅広い害虫に卓効を示し、茶や果樹、野菜などに広く使用されています。

BASF（当時のアメリカン・サイアナミッド）は1996年、日本農薬（当時の三菱化成）との契約のもとでクロルフェナピルの供給を行ってきましたが、同契約の満了により、同剤に関するすべての権利を日本農薬から取得しました。これにともない、BASFも日本国内におけるコテツフロアブル直販事業に参入します。同社は、園芸用殺虫剤としてカスケード乳剤やプリンスフロアブル、園芸用殺菌剤でナリアWDGやシグナムWDG、園芸用除草剤ボーボーサン乳剤・細粒剤などを有しており、コテツフロアブルにより園芸用農薬の製品ラインアップをより一層充実させる方針です。

3 グローバル農薬事業の体制を強化、住友化学

住友化学は4月1日より、化学農薬と生物農薬の事業運営を一体化することで、グローバル農薬事業の体制強化を図ることを明らかにしました。化学農薬と生物農薬のバランスのとれた製品群を最大限に活用し、種子処理からポストハーベストまでの幅広い分野で事業拡大を行い、世界的に需要の高まっている安全・安心な食料の安定供給に貢献していく考えです。

同社グループのグローバル農薬事業はこれまで、化学農薬については住友化学が、生物農薬については米国ベラント・バイオサイエンス（VBC 社）が、それぞれ統括してきました。今後は生物農薬についても、住友化学がマーケティング、プロダクトマネジメント、新規製品開発、事業開発、事業企画の機能を直接統括し、化学農薬と生物農薬の事業を一体的に運営していきます。さらに、今後1年後をめどに、研究および農薬登録の機能についても VBC 社から住友化学に統合し、世界各地の関連会社と直接連携しながら市場ニーズに迅速かつ的確に対応し、事業拡大を進めていく方針としています。

4 催し物

農研機構中央農業総合研究センター市民講座

テーマ：ドイツの小麦作経営

講 師：中央農業総合研究センター農業経営研究領域 関根久子主任研究員

内 容：日本は、小麦のほとんどを輸入に頼っていますが、円安の進行などから輸入小麦の価格が高くなっており、国産小麦の生産振興が重要な課題となっています。国産小麦の生産振興のためには小麦の収量・品質の向上が必要となりますが、日本の小麦収量は西欧諸国と比べてかなり低い水準にあるのが現状です。

そこで、農業経営の概況や小麦の栽培方法、取引体制などの面から、西欧の小麦主産地であるドイツの小麦作経営が、どのようにして高収量を実現しているのかについて探ります。

日 時：2015年6月13日（土曜日） 9時30分～10時30分

参加費：無料（定員約70名、事前の申し込み不要）

場 所：食と農の科学館（つくば市観音台3-1-1）



ドイツ・ニーダーザクセン州における小麦の播種や収穫作業